学校番号	３１２

令和２年度　国語科

教科	古典	科目	古典Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「精選古典Ｂ」（大修館書店）						
副教材等	大学入試最新国語頻出問題（文英堂） プレミアムカラー国語便覧（数研出版） 古文単語 330（いいずな書店） 古文単語 330 準拠ノート（いいずな書店） 古典文法 10 題ドリル（駿台） 全訳読解古語辞典（三省堂）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・有名な古文と漢文の作品を中心に、古典文学に親しむとともに、正しく状況や心情描写を把握できる十分な語彙力・文法を養いましょう。
・予習として単元の授業の前に取り扱う作品については一読し、その本文をノートに書き写し、また意味や文法についての調べ学習を行います。
・古文単語を中心に、受験等で必要な語彙力が身に付いたかを確かめるため、小テストを適宜行います。
・予習と課題は確実にこなすようにしましょう。

2　学習の到達目標

・古文漢文を問わず、語句の意味や文法に忠実な現代語訳ができる。
・伝統的な言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重する態度を養う。
・助動詞や重要語句の意味を自主的に辞書を引いて調べ、独力で古文を読み解く力を身につける。
・古典の世界に親しむことで、ものの見方・感じ方・考え方を広くし、人生を豊かにする態度を養う。
・朗読・暗唱などを通して、文語特有のリズムや響きを楽しみ味わう。
・漢文では訓読や書き下し文のきまりを習得し、文章を読む。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	辞書・便覧等を活用し、自主的に文章の現代語訳に取り組むとともに、解釈や現代語訳の正誤について自身の見解を述べる。	まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語や文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解し、知識を身につけている。

評価方法	行動の観察 （発表等の評価） 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等の評価） 記述の点検 （ノート、ワークシート等）
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
一学期前半	物語・小話	「三船の才」「肝だめし」(大鏡) 「をばすて」(大和物語) 「塞翁が馬」「画竜点睛」	○	○	○	a: 語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 b: 時代背景や登場人物の行動、心情を理解して いる。 c:敬語や 漢文の句法を押さえ、現代語訳している。	a、b、c: 行動の観察と確認及び定期考査
一学期後半	日記・史伝	「町の小路の女」(蜻蛉日記) 「古今著聞集」 「糟糠の妻」「漱石枕流」 「赤壁之戦」(十八史略)	○	○	○	a: 重要古語や文法、敬語に注意して現代語訳している。 b:比喩表現や和歌にこめられた心情を理解する。 c:長い文章に慣れ、正確に読む力を高めている。	a、b、c: 行動と観察 記述の点検及び 定期考査
二学期前半	物語・俳諧	「若紫」「須磨の秋」(源氏物語) 芭蕉・蕪村・一茶 「桃花源記」	○	○	○	a: 重要古語や文法、敬語に注意して現代語訳している。 b: 光源氏の人物像をふくらませ、『源氏物語』の世界を理解している。 c:敬語などから主語を考えている。	a、b、c: 記述の点検と確認及び定期考査
二学期後半	評論・物語・文章	「おもて歌のこと」(無名抄) 「徒然草」(世に語り伝ふること) 「捕蛇者説」(柳宗元)	○	○		a: 登場人物の言動やから心情について考えようとしている。 b: 時代背景や登場人物の行動、心情を理解して いる。	a、b: 記述の点検と確認及び定期考査

三学期	読本・評論	「西鶴諸国ばなし」(井原西鶴) 「年来稽古条々」(風姿花伝) 「論語」	○	○	○	a: 語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 b:『西鶴諸国ばなし』を通して、当時の世の中のありかたを理解している。 c: 和歌を含む王朝文学を文法、修辞法をおさえて、現代語訳している。	a、b、c: 行動の観察と確認及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。